

皆さんからの声はどうやって大阪市に届くの？

「議員は何をしているのかよく分からない」「議会はどんな役割をしているか分からない」という声をよく聞きます。議員は、見えてきた改善点や修正点を議会を通じて大阪市に提案し、また現状の施策で対応できない場合は、新たな取り組みを大阪市に提案します。

議会で質疑・提案するためには、それぞれの案件について十分な理解が必要になります。皆さんからのご相談から現在の施策の現状分析と課題の整理を行います。そして、今できること、できないことは何か？を明らかにしていきます。そのために、ヒアリング勉強会、実地の調査・視察などを行っているのです。

皆さんからのご相談が、今ある施策の不備や課題の改善につながるのです。ぜひお声を届けてください。



① 皆さんからの声をお聞きします

② 協議 議員団でどのように課題に取り組んでいくか協議します。

③ ヒアリング 議員や議員団として施策の現状を各局からヒアリングしていきます。



議員団会議 (毎週火曜日)



理事者からヒアリング勉強会



外部有識者からヒアリング

④ 実地調査・視察 現場に行かないと分からないことばかりです。



横浜市と総務省に、特別自治市の議論経過と都市内分権について視察・ヒアリング



改修箇所の要望で生野区の小学校・中学校を視察

⑤ 議会で質疑・提案

議会の本会議での一般質問、代表質問、委員会質疑で議会に声を届けていきます。9月～12月は、昨年度の決算を審査する議会で事業の評価を行い予算審査につなぎます。12月には次年度の予算要望。2月・3月は次年度の予算を審査する議会を行います。大阪市内では、6つの常任委員会と決算を審査する特別委員会、特定の問題に関する審査や調査研究などを行うための特別委員会があります。83人の議員は、いずれかの専門部会(委員会)に所属します。



武議員



本会議



市議会の会議

2022.11決算特別委員会。大阪市・生野区の現状と課題について質問・要望しました。

里親委託率向上に向けて

Q 3歳未満児が愛着形成に最も重要な時期であるにも関わらず、全国に比べて大阪市の里親委託率がかなり低い。その原因と対策は？

A 3歳未満児は、特に養育者の負担が大きく丁寧な支援が必要である。今まではその支援体制が不十分であった。民間の里親支援機関への業務委託内容の拡充や支援体制の強化により、里親数の増加や里親家庭をチームとして支援する体制を整えていく。

【要望】

「チーム養育」では、里親と支援者の信頼関係を構築し、人との繋がりを大切にしたい。チーム養育であるならば、子どもや里親に寄り添い、対話をしながら一緒に課題解決に向けて歩んでいただきたい。また、里親数増加に向けては、子育て世帯全般への支援メニューを拡充し、すべての養育者の負担軽減と市民の里親家庭の理解促進を要望。

空家利活用

生野区の一戸建て・長屋建ての空家数は市内トップ！
(5870戸。大阪市平均3152戸の約2倍)

どうする？

生野区役所は空家活用株式会社と連携協定を結び「いくのアカツカカウンター」を開設しました！
「いくのアカツカカウンター」とは、生野区に空き家をお持ちの方のためのなんでも相談窓口です。

いくのアカツカカウンター ご利用の流れ

- Step 1** アドバイザーが状況とお悩みを整理して、解決方法を提案します。
- Step 2** お悩み解決をお手伝いする信頼できる事業者をご紹介します。
- Step 3** 買いたい＆借りたい人へ紹介し、活用へ繋がります。



空き家カフェ

生野ならではの豊かな生活文化を継承し、さらに発展的に創造させることを目指し、毎月1回、空き家を活用したい家主さん、空き家の利活用に興味・関心のある方々、専門事業者・学識経験者・関係機関などが出会い、情報交換等を行う「空き家カフェ」開催しています。



実際の事例集です



5軒に1軒が空き家の生野区。そんな生野区で古い家屋や空き家をリノベーションし、自分らしく素敵に暮らしている方々を紹介します。
(生野区広報誌「広報いくの」連載記事より)



水都大阪魅力向上計画、実行中です！

水都大阪の魅力を市民に…
水辺のにぎわいづくりを市民とともに…

武直樹もいくつかの水辺施設を視察しました。その一つ「βHOMMACHIBASHI」では、阪神高速に覆われている点を活かして雨に濡れずに様々な水上アクティビティが楽しめます。水都大阪の魅力を国内外に発信していくと同時に、市民の方にも日常からもっと水辺を近くに感じて頂ければと思います。



生野のために！
チカラで
あリったけの



地球温暖化対策強化

大阪市の2030年度温室効果ガス削減目標は、「2013年度比30%削減」でした。国が「2013年度比46%削減」を目標としたことに伴い、武直樹は「2013年度比50%削減」を提案・要望し、「大阪市地球温暖化対策実行計画」の改定計画に「2013年度比50%削減」が反映されました。